

令和7年度 学校法人福島聖心学園各幼稚園の事業報告書

【二本松カトリック幼稚園】

当幼稚園における令和7年度の事業内容につきまして、下記のとおり報告いたします。

1. 項目別

項目	計画（=Plan）	実行（=Do）/評価（=Check）	改善（=Action）
目的 （園則より）	この幼稚園は、学校教育法第22条及び23条に従って幼児を保育する。キリスト教精神に基づき、幼児に適当な生活環境を与え、心身の正しい発達を助長すると共に、道徳的心情、将来の善良なる社会人としての健康と徳性の基礎を作り、家庭教育を補うことを保育の目的とする。	幼稚園教育要領等に基づき、「感動する心、感謝する心、祈る心、共に生きる力」を育てる教育活動を実施した。園児一人ひとりを大切にして保育にあたり、特に地域の教育資源を生かし、特色となる取り組みに心がけた。令和7年度の定員充足には及ばなかったが、卒園児、地域住民に深く愛され、地域に開かれた幼稚園として目的を果たしている。	令和7年度についても、カトリック的教育目標に添って職員の連携を一層強化しながら、更なる教育の充実を図り保育を進める。園児が「ウェルビーイング」を実感できるような保育を目指すとともに、二本松カトリック幼稚園ならではの、小学校につながることを意識したい。いわゆる「幼小連携」も進めたい。更に、その充実した内容が広く周知されるように取り組んでいく。定員充足に向けて、積極的な取り組みをして目的を達したい。
年間行事について	積み重ねと継続を大切にし、各種行事を遂行する。予定の詳細については、幼稚園の年間行事予定表を作成し公表する。	保護者を交えての行事を増やし内容を改善した。運動会については、9月は残暑が厳しいことや雨天時を考慮して、初めて体育館で行った。運動会に関しては、引き続き暑さと雨の日の対策は考慮する必要があると考える。 ※主な行事 ・誕生会・避難訓練（各月） ・始業式・入園式・保育参観（4月）、マリア祭・親子遠足（5月）、水泳参観・科学タイム（6月）、七夕のお祝	行事については、それらの意義を再考して積み重ねと継続を大事にしながら、園児への教育効果を検証しつつ、新たな方向性を見出したい。 ※主な行事 ・親子遠足（5月） ・誕生会・避難訓練（各月） ・始業式・入園式、親子遠足（4月）、マリア祭（5

		い・夏まつり・年長サマー体験（7月）、運動会（9月） 遠足・人形劇鑑賞・おまつりごっこ・ハロウィンパーティー（10月）、七五三のお祝い（11月）、クリスマス発表会（12月）、なわとび大会・買い物体験（1月）、豆まき・お店屋さんごっこ（2月）ひな祭り会、卒園式・修了式（3月） ※日常の活動として ・英語教室・体育教室・水泳教室 ・課外（体育・造形・水泳）	月）、水泳参観（6月）、夏まつり・七夕のお祝い・年長サマー体験（7月）、運動会（9月）、遠足・人形劇鑑賞・おまつりごっこ・ハロウィンパーティー（10月）、七五三のお祝い（11月）、クリスマス発表会（12月）、なわとび大会・買い物体験（1月）、豆まき・お店屋さんごっこ（2月） ひな祭り会、卒園式・修了式（3月） ※日常の活動として ・英語教室・体育教室・水泳教室 ・課外（体育・造形・水泳）に英語も加える予定。
事業について	土曜保育の実施	保護者のニーズに合わせ土曜保育を月2回程度実施できた。昨年度に引き続き、土曜保育を行った。	利用者も増えてきているため、今後も継続したい。
	耐震点検の実施	非構造部材の耐震化点検、施設内設備（遊具等）の安全点検をチェックリストにして実施した。	危機管理の視点から、園児の安全のために、点検、施設内設備を継続したい。
	防災・蓄電池購入	園内地震等万が一の備えのため、コンセント対応の蓄電器、非常食を購入した。（R7施設機能強化推進加算に係る備品）。	地震に関する避難訓練の際に使用している。地震等で避難の際には活用したい。
	年少・年中組の机の入れ替え	机が老朽化に凶り椅子のサイズに合わせ机の入れ替えを図った。	丁寧な使用を心がけ、保育の環境改善に努めたい。
	砂場の砂入れ替え	砂場の砂が少なくなり、囲いの枠がむき出しで危険なため砂場の入れ替えを図った。	安全で安心して遊べるよう手入れなど徹底し、遊びの際に活用していきたい。
	物置屋根の塗装工事	塗装がはがれ周囲の環境にも悪影響なため、塗装の工事を行った。	保護者、外来者のためにも手入れなど整備していきたい。

教職員の資質向上について (含研修等への参加)	特別支援教育実践	カトリック幼稚園として、いわゆる発達障害等の園児も受け入れていることから、子ども理解と対応のノウハウを身につけるため外部講師においで頂き、講義、また園児への対応を実践した。	外部講師を迎えての研修は、発達障害の理解が深まるとともに、個々の園児の支援に直接繋がるものとなった。今年度はその経験を生かして保育に役立てたい。
	保育実践研修	幼児教育研究会による研修会に、教員が計画的に参加した。また、本学園主催の研修会に全員が参加（8月1日）、カトリック幼稚園の研修会（8月19日）、県教育研修会（8月8日）に参加し、自己研鑽に努めた。	研修会に参加したことで終わってはならない。研修の成果を実際の保育に生かしていくことが大切である。また、研修会には具体的目標をもって参加することにした。
	学校評価（自己評価=教職員）の実施	学校評価シート（自己評価）により、社会人として、園の理念・方針の理解、教職員としての各観点で評価を行い、資質向上に努めた（年1回実施）。	自己評価にとどまることなく、幼稚園、また学園全体の評価（含第三者評価）を上げていく必要がある。教職員が現況を見つめ、切磋琢磨していけるようにしたい。
その他	二本松カトリック幼稚園の地域への理解促進	・二本松市の子育て支援と協働 ・関係機関との連携 ・地域社会との連携	今後も地域社会に認められる園をめざす。 ・幼小連携の推進。 ・二本松市の子育て支援と協働 ・関係機関との連携 ・地域社会との連携

2. 総括

令和7年度は、前年度と同じ15名の職員でスタートとなった。また、昨年度と大幅に変更することなく行事が進められた。令和6年度に大幅に変更したことが多かったので、継続を図った。幼稚園バスの導入や土曜保育に対しても問い合わせがありニーズがあることを実感した年でもあった。利用者の数は必ずしも多くはなかったが、今後の広がりが期待される。未就園児クラスについては継続して実施し、入園増に結び付けられるよう、今後も参加を呼び掛けたい。運動会など学年別ではなく合同で行う行事が増え、保護者が園に入る機会も増えた。また、運動会については体育館を利用し行うことで、準備も計画的にでき、保護者の方も満足していた。保育活動では、担任を始めとする教職員が子どもたちに寄り添いつつ、丁寧に働きか

けるよう心がけた。他の業務についても、園長、主幹教諭、教務主任を中心に全員で話し合いながら進めることにした。けがや事故等なく日々の保育、行事等をほぼ予定通りに実施できたことが成果だったと思われる。

園運営は、コロナ前にすべて戻すのではなく、それぞれを吟味し新しいものにしていく必要があるだろう。教職員でよく話し合ったうえで、より良い園運営になるよう、園長としてもリーダーシップを発揮したい。カトリック幼稚園としての在り方を再考して、より良い園環境を作ると共に、教職員が切磋琢磨して保育の質の向上に努める必要がある。学校評価シートはその指針になると考えられるので、効果的に運用したい。

令和7年度は漸増の傾向にある。途中入園の方が多いものの、新規入園者は少なく思える。今後は入園者がより多くなるような取り組みをしたい。今後も職員の働き方の向上も目指したい。また、令和8年度から利用定員を75名から60名に変更したので、この利用定員60名は必ず確保し社会貢献できる幼稚園を目指す。